

低学年ブロック(2年算数科)

単元名 図をつかって考えよう

(目指す児童像)

既習内容を活用して、自分の考えをわかりやすく表現する子

つきたい力

(D 数量関係)

加法と減法の相互関係

(1) 加法と減法の相互関係について理解し、式を用いて説明できるようにする。

- ① テープ図を正しく完成させ、演算決定をすることができる力
- ② 自分が導いた式をテープ図と関連づけて説明する力

<学習内容の確実な定着を図る
指導の工夫・改善>

- 1 課題意識・目的意識の獲得
 - ① 導入の工夫
 - ② 学習感想を生かす
- 2 主体的な言語活動の工夫
 - ① 既習事項の掲示
 - ② 図・式・言葉の関連づけ
 - ③ ペア学習による話し合い活動

<学習意欲を高める
指導の工夫・改善>

- 3 自己評価の工夫
 - ① 学習の振り返り
- 4 相互評価の工夫
 - ① 話し合い活動の充実
- 5 教師によるそのつど評価の工夫
 - ① 個に応じた評価の工夫
 - ② T1,T2 の連携
 - ③ 発言を認め、励ます声掛け

単元の目標

- 加法と減法の相互関係に関心を持ち、場面を図に表すことのように気づいて問題の解決に用いようとする。
(関心・意欲・態度)
- 場面を図に表して構造をとらえ、式について考え表現することができる。
(数学的な考え方)
- 加法と減法の相互関係を表した図を用いて、図や式に表し、問題を解決することができる。
(図形や表現についての技能)
- 加法と減法の相互関係について理解する。
(知識・理解)

【本時の授業の実践と考察】

本時 (4/7時)

(★ 他教科・他学年との関係 ※ 考察)

1 本時の問題をとらえ、見通しをもつ。 手だて1-①

問題 ジュースが何本かあります。31本くばったので、のこりが8本になりました。ジュースははじめ、何本ありましたか。

2 本時の学習課題をとらえる。 手だて1-②、2-①

課題 図をつかって、はじめの数のもとめ方を考えよう。

※導入で具体物を見せたことで、児童の関心・意欲・課題意識を高めることができた。



T: ジュースが何本かあります。31本配ったので、残りが8本になりました。ジュースははじめ何本ありましたか。問題をテープ図に表して考えよう。

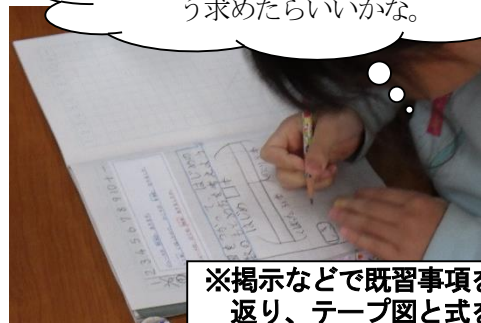
3 自力解決をする。

手だて 2-①、5-②・③

T: 全体と部分に気を付けて、問題の通りにテープ図を書いてみましょう。



C: テープ図を見て、□はどう求めたらいいかな。

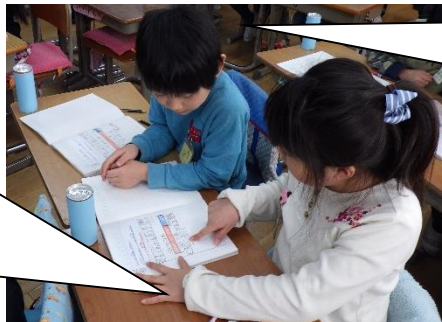


※掲示などで既習事項を振り返り、テープ図と式を使って考えることができた。

4 ペアで伝え合いをする。

手だて 2-③

C: 問題の通りにテープ図にすると、こうなります。テープ図を見ると、□は全体なので、部分と部分を足して求めます。どうですか。



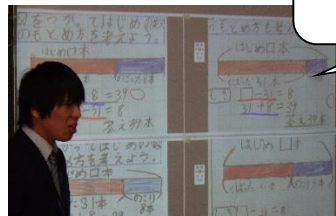
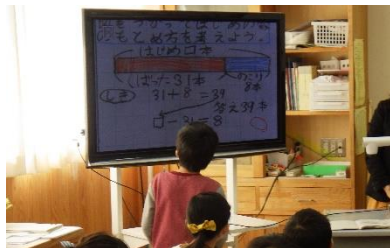
C: いいと思います。僕も同じテープ図と答えになりました。部分や全体という言葉を使っていて分かりやすかったです。

※全体交流で友達の考えを発表させるようにすることで、話し手はより分かりやすく伝え、聞き手は考えを理解しようという意識をもつことができた。

☆ 国語の授業で学習してきた表現の仕方を生かし、算数科でも自分の考えを自分の言葉で伝えることができるようになることを考える。(国語科)

5 全体で考えを交流する。

手だて 2-②



C: どのテープ図も同じです。

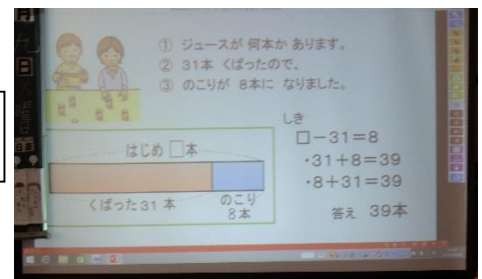
問題の通りに式を立てると引き算だけど□を求める式は足し算です。

※友だちの意見に質問や感想を言うことで、理解を深め、整理して考えることができた。また考えを比較することで問題を解決することができた。

☆ 互いの考えを伝え合い、交流する中で、相手の考えを認めたり、他者を尊重したりする態度を育てることにつながることを考える。(道徳)

6 本時のまとめをする。手だて 2-②

まとめ テープ図をつかうと、はじめの数はぜん体ということが分かるので、たし算をつかうと求められる。



7 適用問題に取り組む。

8 本時の振り返りをする。

手だて 1-②、3-②

【研究協議】

- ペア学習では、テープ図を使って自分の考えを相手に伝えるとともに、分からないことを質問したり、自分と比べて感想を言ったりすることで友だちの考えの良さに気付くことができた。
- ICT を活用した結果、児童が視覚的に物事をとらえたり、比較したりすることができ、興味関心をもって学習することができた。
- 児童が既習事項を確認しながら自力解決を行う姿が見られた。その結果、児童がテープ図を正しく書き、演算決定の理由も明確に述べることができた。
- T1 と T2 の役割を伝え合いの際にも分担して、より多くの考えを引き出せるとよかった。
- 本時の学習内容と、本時までの学習内容を比較して、授業の繋がりを感じさせられるとよかった。